

宝塚さざんか福祉会後援会

平成30年度事業報告

1、市民への啓発を目的として

- (1) 機関誌「さざんか」85号・86号を発行し、関係機関等に配布しました。
- ・85号は新築のグループホーム「あじさいホーム」や「かしの木工房こはま」の紹介を行いました。
 - ・86号は法人創立50周年記念特集と「グループホームオフィス」や「くるみの里」を紹介しました。
 - ・なお85号は事務局で編集印刷を行い、86号は事務局負担軽減のため業者に印刷を依頼しました。
- (2) 事業所市民見学会を実施し、近隣地域との交流を図り、障がい者への理解を深める助けとしました。
- 実施日：3月〇〇日
訪問先：ワークプラザ宝塚
グループホームオフィス
参加者：〇〇名
- ・ワークプラザでは、熱心に作業に取り組むようすと、新しく始まった高齢者向け生活介護サービスの活動を見学しました。
 - ・グループホームオフィスでは、グループホーム利用者をの24時間365日を支える拠点が整備されたことに大きな安心感を持ってました。
- (3) さざんか福祉会の主催行事を共催、後援します。
- 口谷まつり、安倉フェスタなどの事業所主催の行事に対し、1事業所当たり5万円の運営費補助を行いました。
- (4) 宝塚サマーフェスタの出展参加費を負担し、自主生産品のPRの場となるよう後援しました。

2、就労者及びグループホーム利用者の余暇支援への協力

就業・生活支援センターに5万円、グループホームに10万円の余暇支援費用を助成しました。

3、法人各事業所の生産活動振興を支援

授産作業を主体に行っている事業所に対して、1事業所当たり5万円の開発研究費補助を行ったほか、〇〇機や加湿器など適時支援環境整備の費用を支給しました。

4、施設見学会

バスによる施設見学会を実施し、あわせて会員相互及びボランティア、関係者等の親睦交流をはかりました。

実施日：10月17日

訪問先：社会福祉法人淡路島福祉会
多機能型事業所『ウィンズ』

参加者：31名

- ・多機能型事業所内や施設外で、利用者の特性に合わせ食品加工(パン・クッキー・弁当等)や下請け、清掃、農業などに組み込まれていました
- ・また、同法人が運営する特別養護老人ホームと連携して知的障害者のショートステイ受け入れを行っているとの説明もありました。

5、長期継続会員へ記念品配布

〇〇名に、記念品として〇〇〇を配布し、感謝の意を表しました。

6、宝塚あしたば園の大規模改修工事に一部費用助成

この件については、予算段階で100万円の寄付を計画していましたが、国・県等からの補助金を得ることが出来なかったため工事に着手できていません。従って、後援会からの助成は保留となりました。

7、会員の確保に努める件について

後援会会員数については、以下の現状にあります。

会員数は、この20年間を通じて減少が顕著で、会費収入は往時の約60%に落ち込んでいます。

当後援会は、昭和43年に宝塚さざんか福祉会設立と同時に結成され、施設利用者だけでなく、地域の市民や企業を巻き込んでさざんか福祉会と知的障害者を支援しようと結成され、活動を続けてきたものです。

時代が変わり、現在は特に地域への啓発活動の要となるのが後援会の大きな目的であることを考えると、会員の確保については、今後一層の努力が求められています。